

大妻女大家政 ○金高 薫 吉岡 徹

目的 バロック・ロココ時代は、現代とは異なり誇大、過度とも思える服飾形態が好まれ、それが美意識として持てはやされていた。一見バランスのとれていないこのような服飾形態が流行したその原因はどこに有るのか、そしてそこには何かしらの共通の美的要素としての規則性が示されるのだろうか、今回比例解析で、この特徴的な服飾形態の美意識について当時の服飾の様相を描いているファッション・プレートより考察した。

方法 「Galerie des modes et costumes français (1778-1787)」全IV巻のファッション・プレートより女性の服飾の描かれているものの中から服飾形態の全体像が解り易く描かれているものを28点を選出、各々の服飾形態についての全体、各部分について、面積比・長さ比を黄金比、ルート比を用いて算出し比較検討した。

結果 面積比・長さ比共全体、各部分に、黄金比が最も多くみられた。前者においては、スカート比で、黄金比が60%強を占め、 $\sqrt{5}$ 矩型が目立った。全身比には、 $\sqrt{8}$ の値が最も多く、57%強を占めていた。また、後者でも縦比、横比に黄金比が多くみられた。以上の結果、バロック・ロココ時代の一見無秩序にもみえるこれら服飾形態において美意識を含有した比例が伺えた。